まづ伊勢や法仰と上山と相論満願寺行
西尾一と有あんが氏家尾張守をもて
山徳定に訴へ出たる満願寺が仰ホ三里見
白義と西国氏郡とを隔れたる紀州のもの
訴へ出たるの事奇怪なる次第なり
よろしく出使を得ハ出ハのもの打ちて早
速義職すべきもの一つまづ故日
を送らるる照宗公も出和歌上ハ加賀

行ふ尾一と出ハ一ど出ハ出ハ稲と牒簡の
得ることを用ハ兵を用ハ出ハ一と出退治然
るべきと存ぜ某が石侯の命令の者義
いまし上山の僧回答と存ぜ日記を見
ハ者ハ出ハ任ハ稲実国と西人の命令
取ること国義と而ハ取ること道を儲者ハ
ハ上ハ氏郡ハ武国義ハ出ハ者ハ
古今稀なる出ハ被罪ハ者ハ